

校内サポートルームが拓く 「4つの可能性」

～「ばれっとラボ」外部研究員 効果的活用ワーキンググループ～



日本薬科大学特任教授
馬場 久志氏



埼玉県立大学教授
東 宏行氏

本市では令和4年度より「戸田型オルタナティブ・プラン」を掲げ「誰一人取り残されない教育」を推進している。取組の1つとして、市内の全ての小学校に戸田型校内サポートルーム「ばれっとルーム」を設置・運営している。本年度はさらに、中学校全6校に「きゃんばすルーム」を設置した。

小・中学校の校内サポートルーム設置による効果検証や、不登校対策に係る分析および効果的な活用に向けた指導・助言のため、有識者6名を「ばれっとラボ」外部研究員として委嘱している。ここでは、これまで「ばれっとルーム」を視察・助言いただいた2名の研究員より「きゃんばすルーム」訪問を通して見えてきた今後のサポートルームの可能性について紹介する。

一昨年度の小学校「ばれっとルーム」に続く今年度の中学校「きゃんばすルーム」の設置は、全国的に見ても数少ない全校設置で先駆けとなっている。モデルがない中、各校は創意工夫をして活動を開始している。だがこのことは不安点であるどころか、むしろこれからの学校の可能性にもつながる強みだと考えてよい。

◆ 4つの可能性

【学校の個性が生きる設計と運営の可能性】

本校にはどういったサポートがよいだろうかと、各校では現状を独自に分析し環境整備を試みている。各校の意匠はさまざまで、学校の主体性が発揮されている。

【生徒の思いや目線から展開する可能性】

手探りの活動は生徒の反応との双方向性を必要とするので、それを大事にすることで、生徒の思いを基点にした、生徒の安心と落ち着きをもたらす場が創出される。

【相談・居場所・学習の3つが効果的に機能する可能性】

各中学校で、「きゃんばすルーム」と「さわやか相談室」を併設することによって、相談・居場所・学習の3機能が効果的に機能する可能性が見られた。設置場所については、別の場所にする方法、同じ場所をパーティションで分離する方法等、各中学校の特性に合わせた工夫がみられた。活動内容については、「きゃんばすルーム」は主に学習をする場所という位置づけであり、「さわやか相談室」は従来より相談室としての機能が明瞭になったと思われる。相談・居場所・学習の3つの機能を、場所で分離、時間帯で分離、スタッフで分離する等、多様な工夫がみられた。3つの機能が効果的に機能する可能性がある。

【切れ目のない支援／各支援の場の連携が展開する可能性】

利用状況をお聞きし、「ばれっとルーム」から「きゃんばすルーム」へとつながる、切れ目のない支援の可能性が見られた。一方、「すてっぴ（教育支援センター）」・「西すてっぴ」、「room-K」、生徒支援教室「いっぽ」等も含めた多様な支援の場がどのように連携していくのかという課題もある。児童生徒、保護者の目線で考えると、多様な窓口や支援の場があり、どれも活用できるという視点が大切である。当面、ゆるやかな連携で、パッチワークのような形で機能するようにして行くことが必要である。



外部研究員による視察



多様な学びの場
について

★いずれの可能性も、型に合わせて生徒を処遇するのではなく、生徒に合わせて環境を調整するという学校の将来像につながるだろう。



LEAFシステム実証事業への参画

これまで戸田市では、全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査等について市教委と学校が連携しながら分析することを通じて、授業改善に取り組んできた。他方で、児童生徒のスタディログ（授業中や家庭学習にどのように取り組んでいるのかのデータ）の収集とそれを活用した分析については、必要性を認識しつつも技術的な制約から十分に取り組むことができていないことが課題となっていた。

そのような状況を改善するため、今年度から京都大学の緒方研究室と内田洋行が開発を進めているLEAFシステムの実証研究に参画し、一部の学校で取り組み始めている。

LEAF (Learning and Evidence Analytics Framework) システムは、学習ログの収集と分析を支援する基盤システムのことである。これは、学習管理システム (LMS)、デジタル教材配信システム「BookRoll」、学習履歴データベース (LRS)、データ分析ツール「ログパレット」からなり、個別最適化された指導や学習環境の提供を可能にし、同時に、授業を改善して教師の負担軽減を目指すシステムである。

今後、戸田市ではスタディログを活用した授業改善やエビデンスの創出に向けて取り組んでいく。



- 教師が登録した教科書や教材を、子供がブラウザで閲覧ができる
- ページめくりや、マーカーを引くなどの活動を「学習ログ」として記録できる



- BookRollや学習管理システムLMS等を用いて行った教育・学習活動についてログデータを分析し、可視化するシステム
- 個人またはクラス全体で、BookRoll上の教材の閲覧時間、学習活動の把握ができる
- 教師は、ログパレ内で得られたデータに基づいて授業を振り返ることで、子供の理解度を把握し、次の授業設計に役立てることができる

※特別寄稿 (P.12) 緒方教授の文章も合わせて御覧ください。

出所：LEAFシステムHPを参考に戸田市教委にて作成